



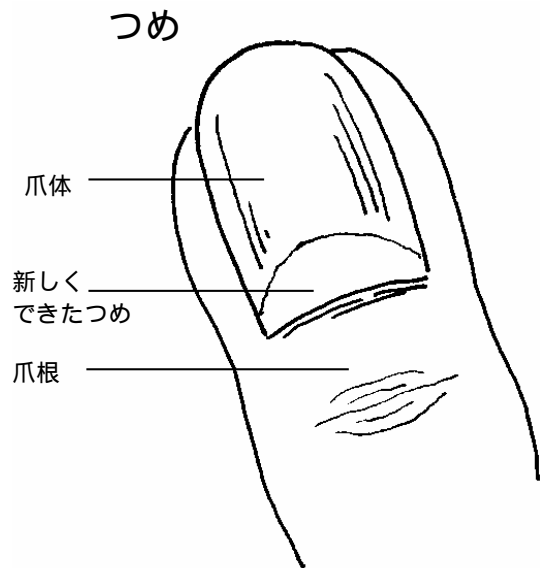
「つめ」の、半月をした白い部分は何なの

白い部分は、新しくつくられたばかりの「つめ」

「つめ」の、半月をした白い部分は、新しくつくられたばかりのつめで、まだ、完全にかたくなっていない部分です。

「つめ」の根元の部分を爪根といい、皮膚の中にかくれています。この部分で、つめはいつも少しずつつくられているため、だんだんおしあげられて、のびてくるのです。

つめは、約10日間で1円玉の厚さくらいのびますが、子どものほうが大人よりものびるのが速く、冬よりも夏のほうが速くのびます。



「つめ」は皮膚がかたく変化したもの

「つめ」は、皮膚がかたく変化したもので、角質というものでできています。

つめは、もとは皮膚(角質)だったものが、進化をするうちにかたくなったもので、指の先をかたくするために、生まれたものなのです。

「つめ」はかたいのですが、指を使っているうちに、つめはだんだんすりへっていき、よく使う指ほど、へり方がはげしいためどんだんのびます。いちばん速くのびるのは、親指で、次が人指し指、中指、薬指、そして、小指の順になっています。

(監修・保志 宏)

